

## 付属資料

**(1) 諮問**

平成25年11月26日

大和市社会福祉審議会 会長 殿

大和市長 大 木 哲

大和市地域福祉計画素案について（諮問）

このことについて、大和市地域福祉計画を改定するにあたり、別添「地域福祉計画素案」について、貴審議会の意見を求めます。

**(2) 答申**

平成26年1月28日

大和市長 大木 哲 様

大和市社会福祉審議会

会長 小 野 敏 明

大和市地域福祉計画素案について（答申）

平成25年11月26日付で諮問のありました「大和市地域福祉計画素案」について、本審議会でも審議した結果、次の通り意見を付して適当なものと認めます。

**【附帯意見】**

1. 文章表現にあたっては、市民に分かりやすい言葉遣いや表現に努めてください。
2. 計画の内容については、意見公募手続（パブリックコメント）で寄せられた意見について尊重するとともに、本審議会での検討結果を踏まえて策定してください。
3. 指標を設定する場合は、事業の進捗度合いが分かるような目標値の設定に努めてください。
4. 計画の推進にあたっては、市民、地域福祉に携わる団体や関係機関の理解と協力を得ながら進めてください。
5. 進行管理については、定期的な点検、評価を行い、計画の進捗状況を把握し、必要に応じて計画の見直しをしてください。なお、その過程は市民等にも見える形で進めてください。

## 2

## 策定経過

社会福祉審議会、地域福祉計画策定検討委員会による審議検討の他、市民意識調査及び意見公募手続き（パブリックコメント）を行いました。

|           | 社会福祉審議会                   | 意見の聴取                                   | 庁内での取り組み                   |
|-----------|---------------------------|-----------------------------------------|----------------------------|
| H25<br>4月 |                           |                                         | 第1回検討委員会(4/26)             |
| 5月        | 第1回社会福祉審議会(5/31)          |                                         | 第2回検討委員会(5/20)             |
| 6月        |                           | 市民アンケート<br>自治会(長)アンケート<br>民生委員児童委員アンケート | 第3回検討委員会(6/26)             |
| 7月        | 第2回社会福祉審議会(7/26)          |                                         | 第4回検討委員会(7/16)             |
| 8月        | 第3回社会福祉審議会(8/27)          |                                         | 第5回検討委員会(8/19)             |
| 9月        | 第4回社会福祉審議会(9/17)          |                                         |                            |
| 10月       | 第5回社会福祉審議会(10/16)         |                                         | 計画骨子案作成<br>第6回検討委員会(10/21) |
| 11月       | 第6回社会福祉審議会への<br>諮問(11/26) |                                         | 計画素案作成                     |
| 12月       |                           | パブリックコメント                               |                            |
| H26<br>1月 | 第7回社会福祉審議会からの<br>答申(1/28) |                                         | 第7回検討委員会(1/9)              |
| 2月        |                           |                                         |                            |
| 3月        |                           |                                         | 計画完成                       |
| 4月        |                           |                                         | 計画スタート                     |

## (1) 社会福祉審議会

(敬称略)

|    | 区分               | 委 員 名                                                |
|----|------------------|------------------------------------------------------|
| 1  | 市議会議員            | 大谷 仁                                                 |
| 2  | 〃                | 町田 零二                                                |
| 3  | 地域福祉団体の代表者       | 高橋 政勝                                                |
| 4  | 〃                | 金子 直勝                                                |
| 5  | 関係行政機関職員         | 竹村 洋治郎                                               |
| 6  | 〃                | 松井 哲夫                                                |
| 7  | 学識経験を有する者        | 小野 敏明                                                |
| 8  | 〃                | 北林 郁子                                                |
| 9  | 〃                | 桐原 由美                                                |
| 10 | 〃                | 鈴木 敏彦                                                |
| 11 | 保健医療、福祉施設等を代表する者 | 和田 紀子                                                |
| 12 | 〃                | 前川 公男                                                |
| 13 | 〃                | 山岸 安志                                                |
| 14 | 市長が行う公募に応じた市民    | 阿部 智恵子                                               |
| 15 | 市長が必要と認めた者       | 山本 雄一（平成 25 年 6 月 20 まで）<br>柴田 保（平成 25 年 6 月 21 日から） |

## (2) 意見公募手続き（パブリックコメント）

期間：平成 25 年 12 月 1 日～平成 26 年 1 月 8 日

募集方法：持参、郵送、ファクシミリ

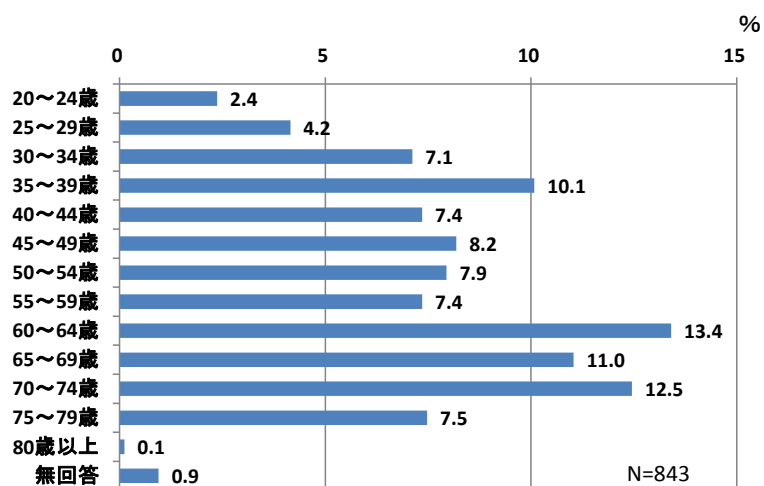
意見の提出状況：意見者数 2 人 / 意見件数 22 件

## 1 調査概要

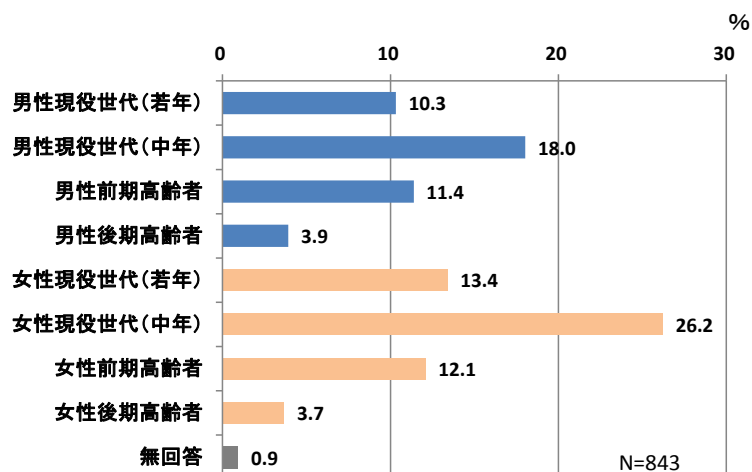
|       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 調査方法  | 郵送で発送、郵送で回収                          |
| 配布総数  | 2,500 人(20 歳以上)<br>--住民基本台帳から無作為抽出-- |
| 有効回収数 | 843 人                                |
| 回収率   | 34.0%                                |
| 実施時期  | 平成 25 年 6 月～7 月                      |

## 2 回答者の属性

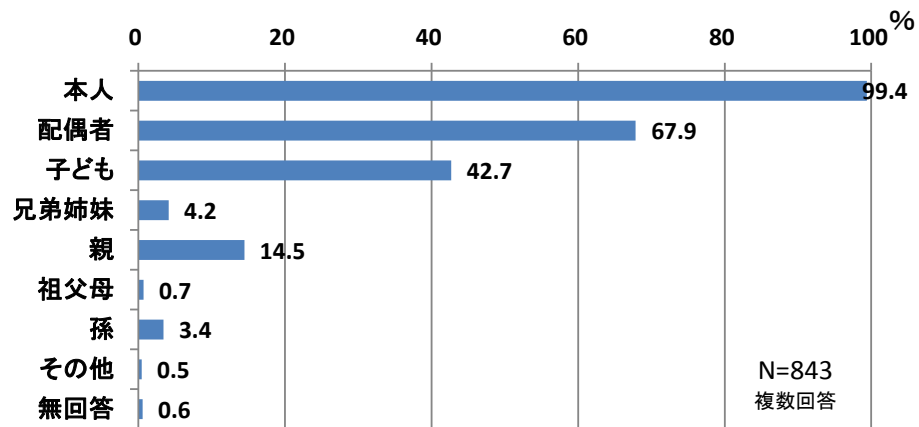
## (1) 年齢



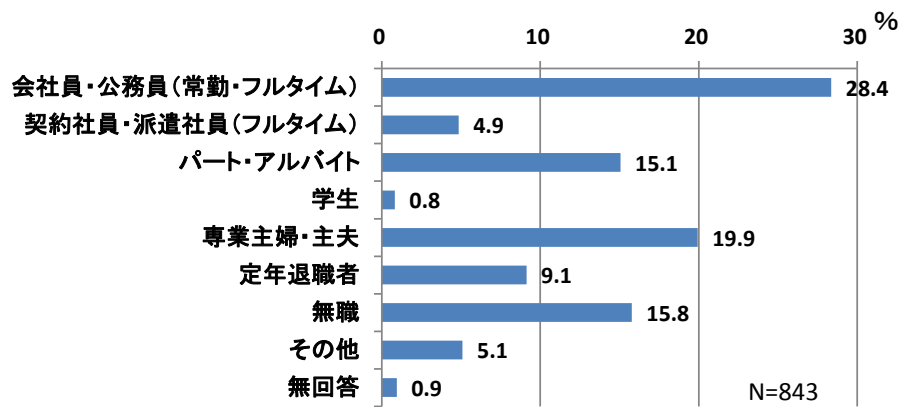
## (2) 性別



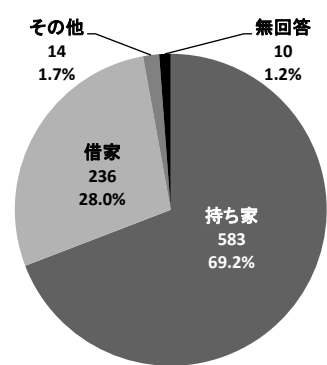
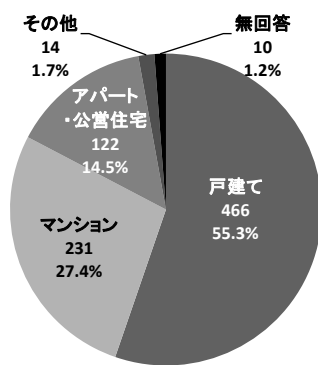
### (3) 家族構成



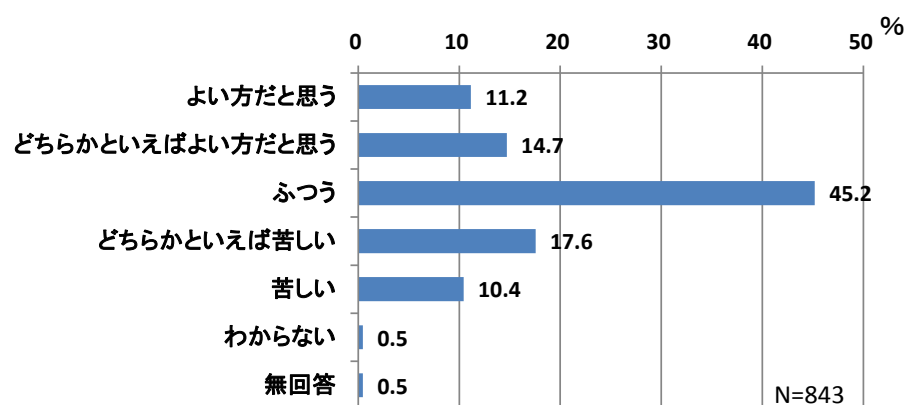
### (4) 職業



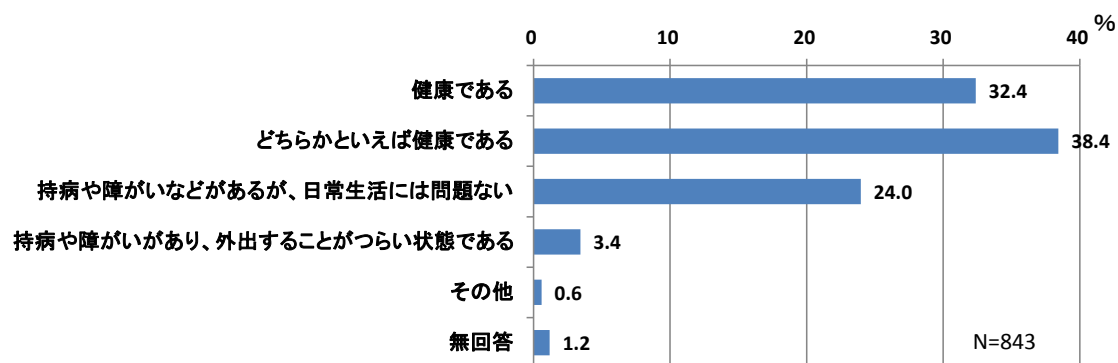
### (5) 住居形態



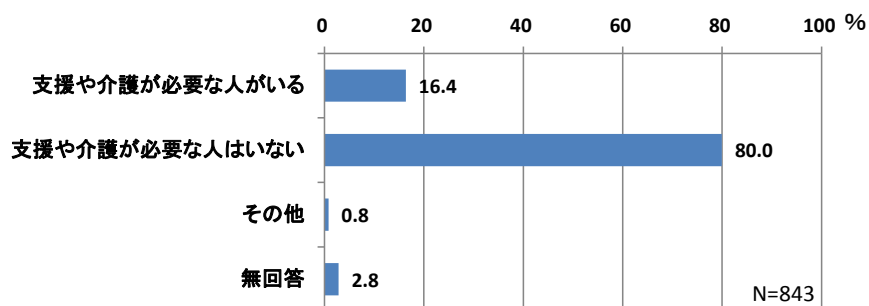
## （６）世帯の経済的な状況



## （７）現在の健康状態

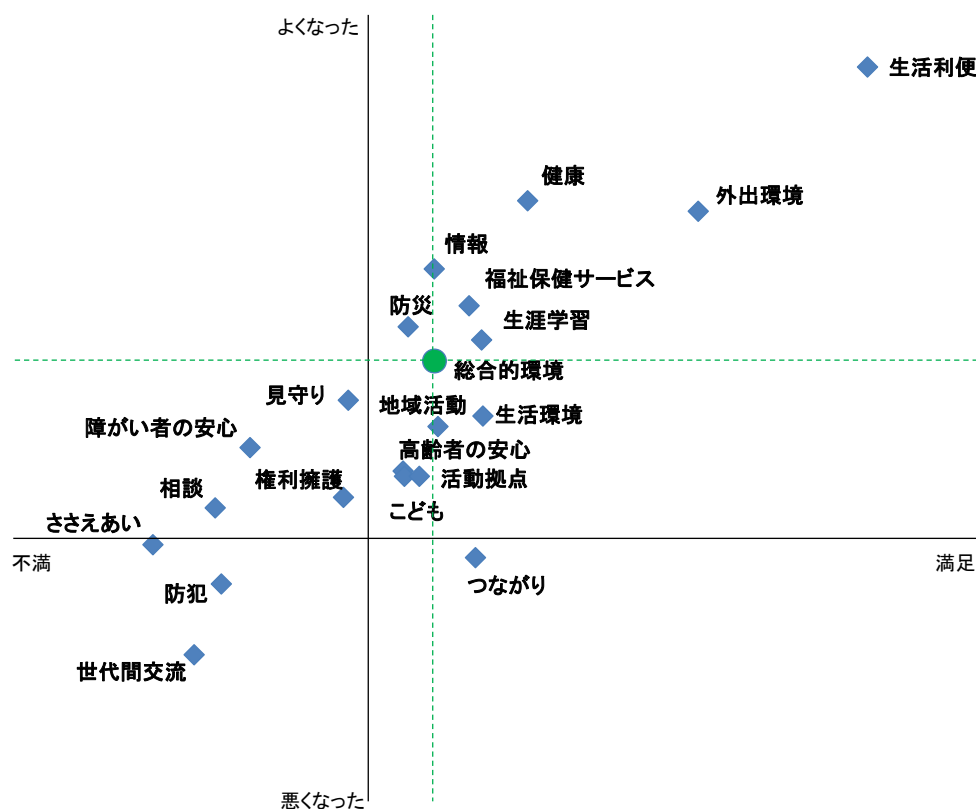


## （８）家族内の要支援や要介護者の存在



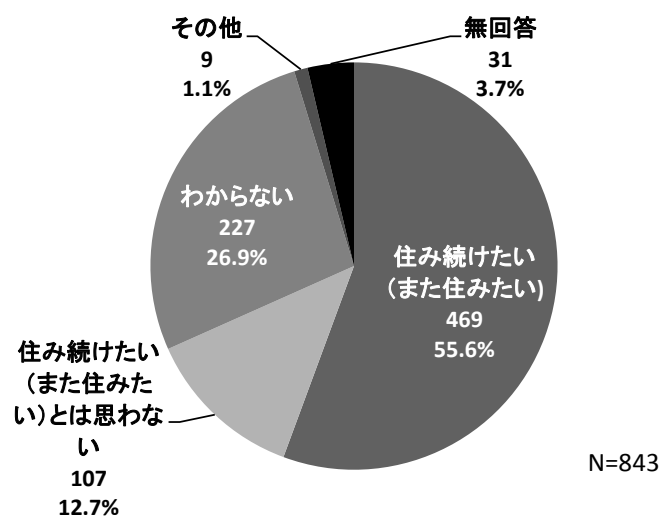
### 3 地域での暮らしに関する環境

これまでの行政によるサービスの評価は高いが、地域が中心となって進める分野の評価が低い。とくに、以前より悪くなったと評価されたのは、「つながり」「防犯」「世代間交流」「ささえあい」である。また、よくなったと評価されつつも不満の域にあるのは、「見守り」「権利擁護」「障がい者の安心」「相談」である。



### 4 定住意向

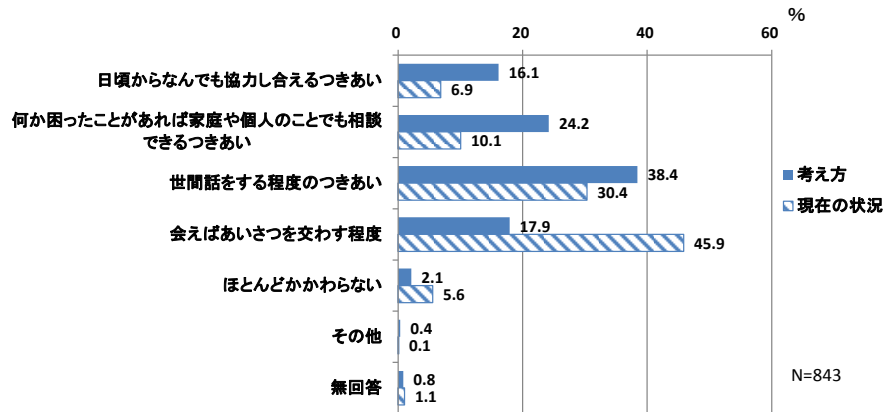
住み続けたいとする人は 55.6%と低い、「わからない」とする人が 26.9%いる。



## 5 地域での助けあい

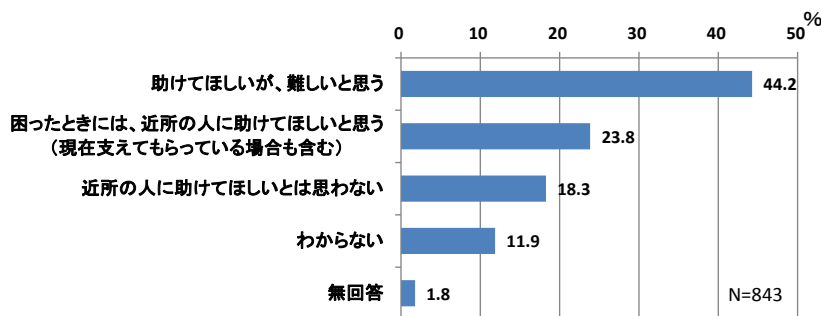
### (1) 近所の人とのつきあい方や考え方

「日頃からなんでも協力し合えるつきあい」は考え方としても16.1%、現在のつきあいでは6.9%と少なく、つきあい方に一定の距離を置いておきたい意向が反映されているものと考えられる。



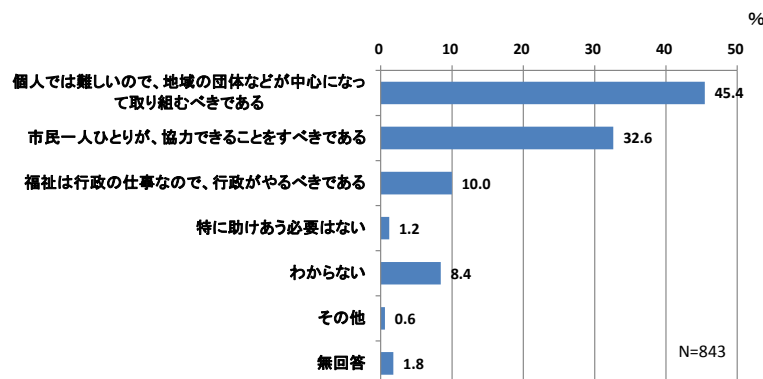
### (2) 困ったときの近所の人との関係

「助けて欲しいが難しいと思う」が44.2%と半数近くを占め、「世間話をする程度のつきあい」(38.4%)とする「近所つきあい」の考え方が根底にあると推察される。



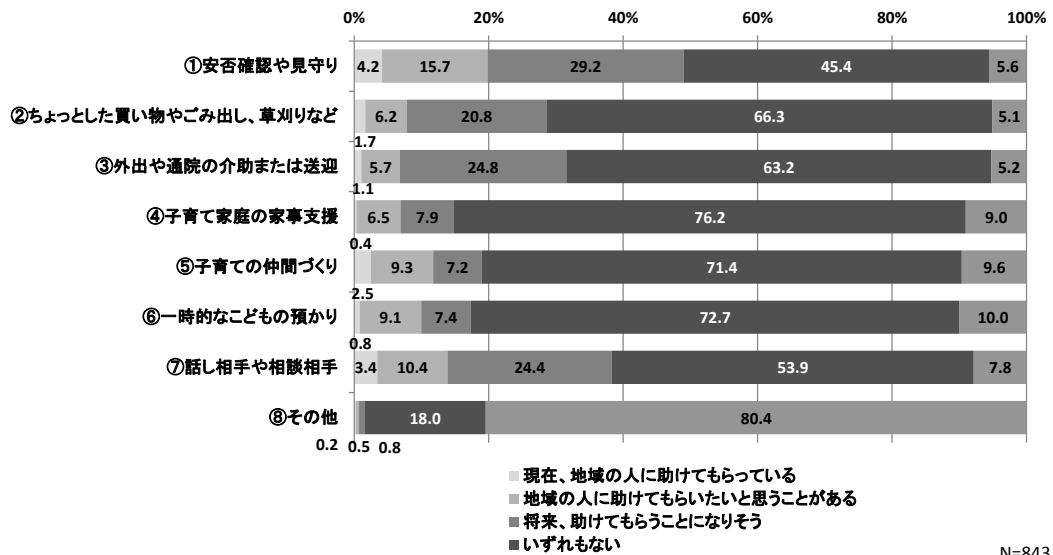
### (3) 「地域で助けあう福祉」の推進

「個人では難しいので、地域の団体などが中心になって取り組むべきである」が45.4%と、「市民一人ひとりが、協力できることをすべきである」32.6%を上回っている。「福祉は行政の仕事なので、行政がやるべきである」「特に助けあう必要はない」とする人は10%、1.2%と少ない。



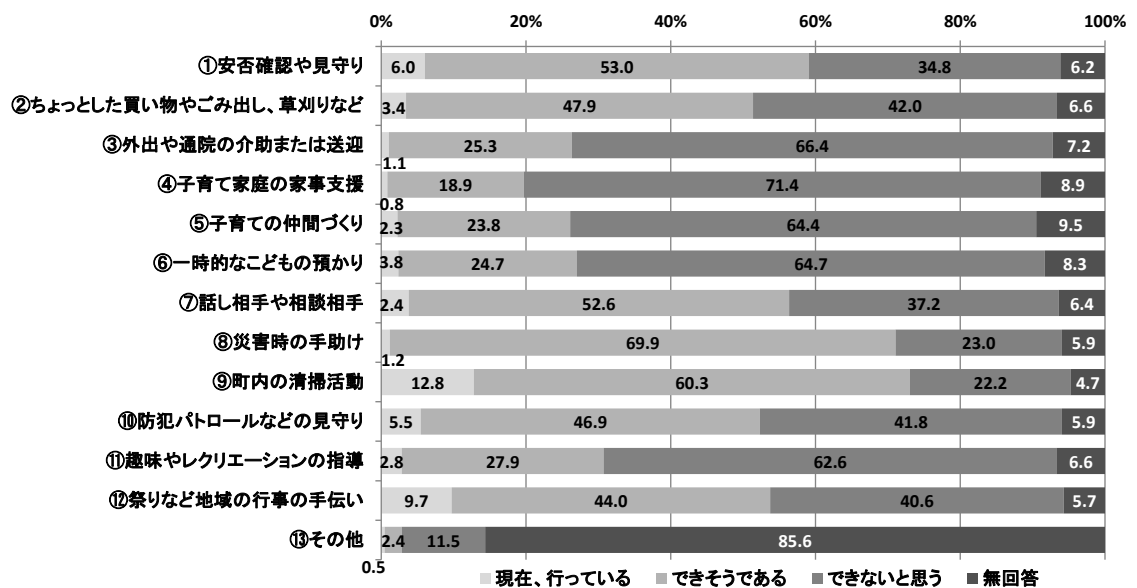
#### （４）日常生活での地域の人との関係

「将来助けてもらふことになりそう」も含めると、地域からの支援の必要性の上位３項目は、「安否確認や見守り」「話し相手や相談相手」「外出や通院の介助または送迎」といずれも高齢者への支援の項目であり、「子育ての仲間づくり」「一時的な子どもの預かり」「子育て家庭の家事支援」など子どもに関わる支援の項目は少ない。



#### （５）地域の助け合い

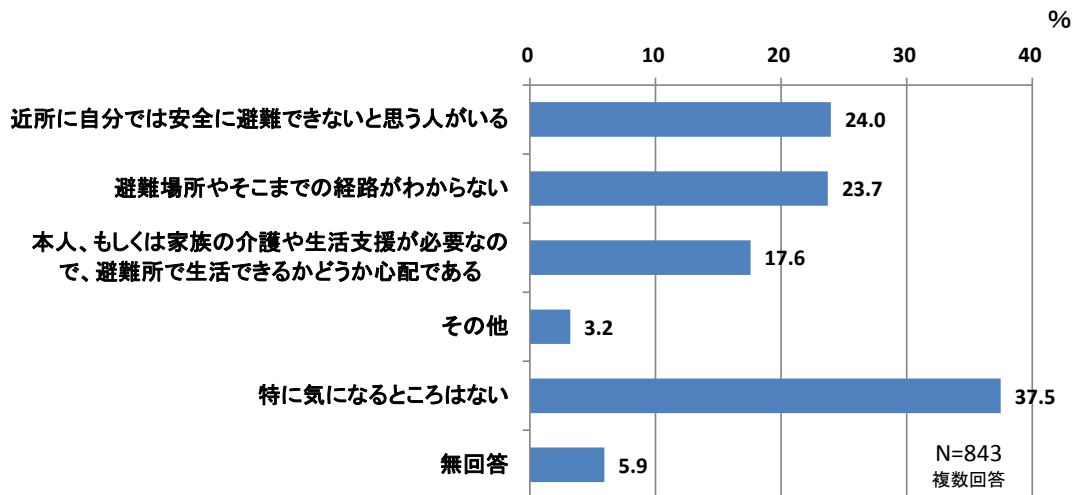
“現在行っている”、“できそうである”「地域の助け合い」の上位２項目は「町内の清掃活動」「災害時の手助け」であり、７割を超えている。次いで３位から７位までは、「安否確認や見守り」「話し相手や相談相手」「祭りなど地域の行事の手伝い」「防犯パトロールなどの見守り」「ちょっとした買い物やごみ出し、草刈りなど」で５割を超えている。子どもに関する項目はいずれも３割未満であった。



## 6 災害時の避難

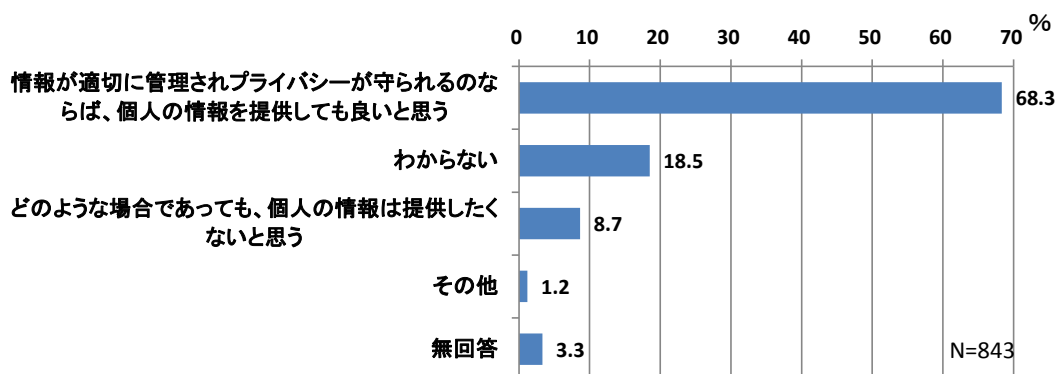
### （１）災害時の避難で気になること

「災害時の避難で気になること」では「気になるところはない」が４割弱でもっとも多い。「近所に自分では安全に避難できないと思う人がある」「避難場所やそこまでの経路がわからない」はそれぞれ約 1/4 であり、「本人、もしくは家族の介護や生活支援が必要なので、避難所で生活できるかどうか心配である」とする人は２割未満であった。



### （２）支援が必要な人の情報の地域での共有

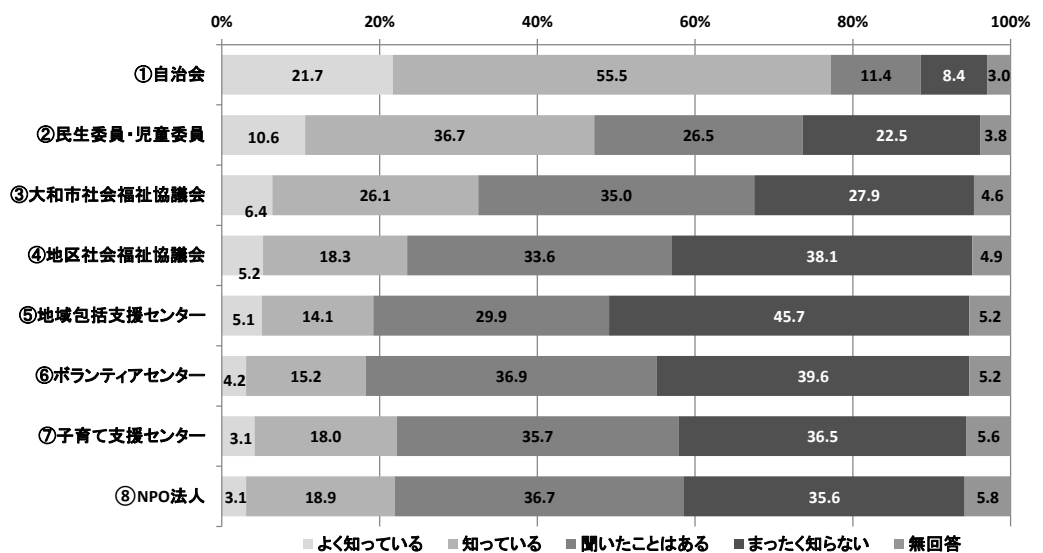
「支援が必要な人の情報の地域での共有」では、「情報が適切に管理されプライバシーが守られるのならば、個人の情報を提供しても良いと思う」が７割を占め、「どのような場合であっても、個人の情報は提供したくないと思う」は１割未満であった。



## 7 地域での活動

### (1) 地域で活動している人々の認知度

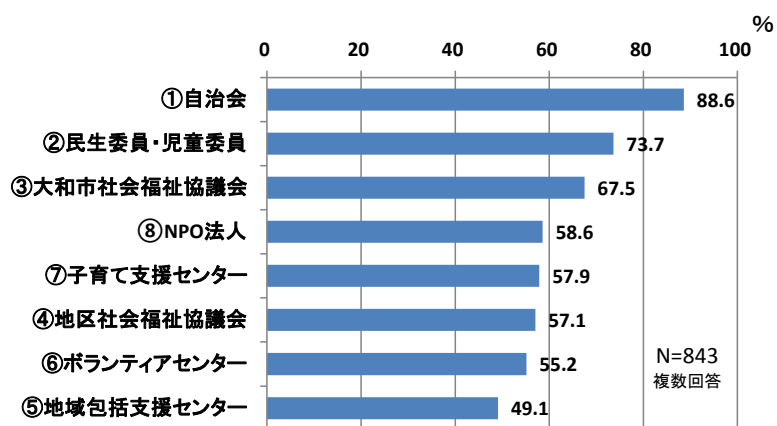
“聞いたことがある”を含めて認知されている上位3項目は、「自治会」「民生委員・児童委員」「大和市社会福祉協議会」である。ほとんどの活動が半数以上から認知されているのに対し、「地域包括支援センター」は49.1%と最も認知度が低かった。



N=843

### 地域の活動の認知度

「よく知っている」「知っている」「聞いたことがある」の合計

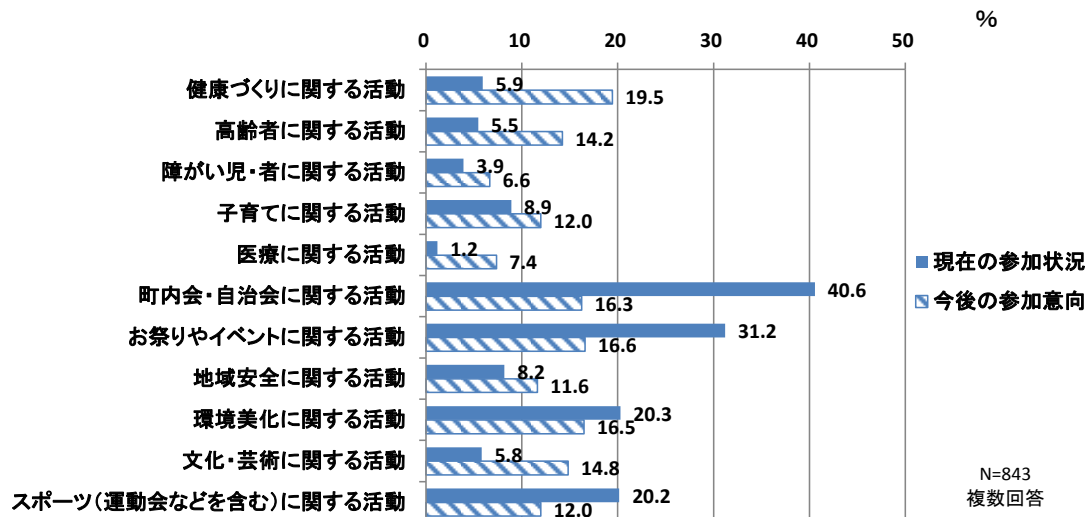


N=843  
複数回答

## （２）地域活動やボランティア活動への参加

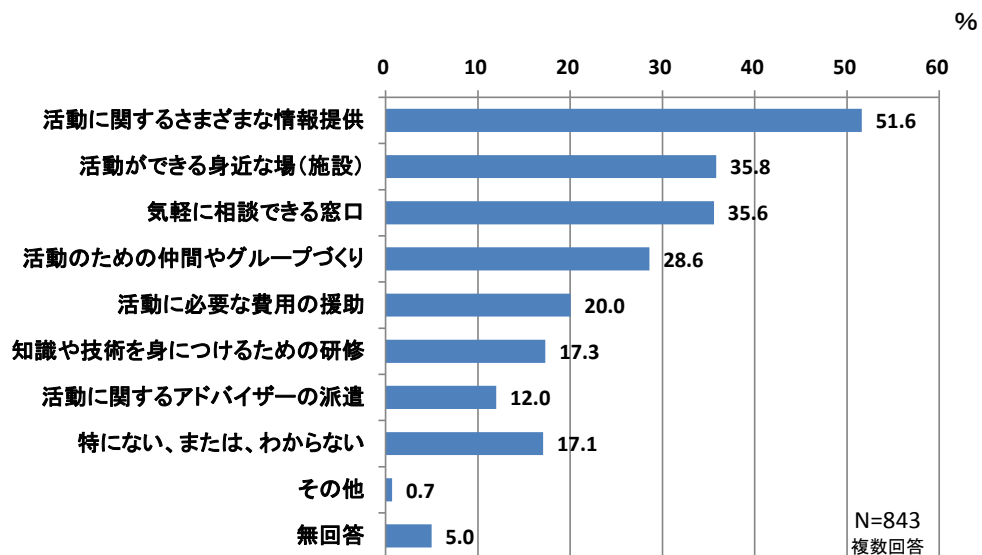
現在参加している活動では、「町内会・自治会に関する活動」がもっとも多く４割を占めており、次いで「お祭りやイベントに関する活動」「環境美化に関する活動」「スポーツに関する活動」が続き、２割を超えている。子育て、健康づくり、高齢者、障がい児・者、医療の各活動に関する参加割合はいずれも１割未満である。

現在の参加状況に対して今後の参加意向が高く現れた(５ポイント以上)のは、健康づくり、高齢者、医療、文化・芸術に関する活動であった。



## （３）活動に参加しやすくなる条件

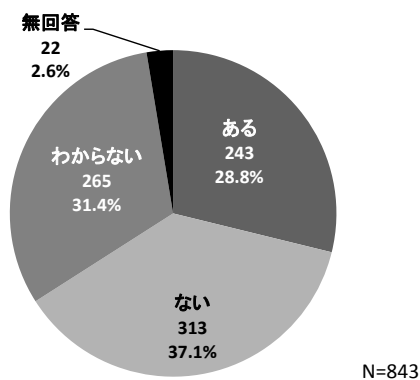
活動に参加しやすくなる条件の上位３項目は、「活動に関するさまざまな情報提供」「活動ができる身近な場(施設)」「気軽に相談できる窓口」である。



#### (4) 気軽に立ち寄れる、集える場所

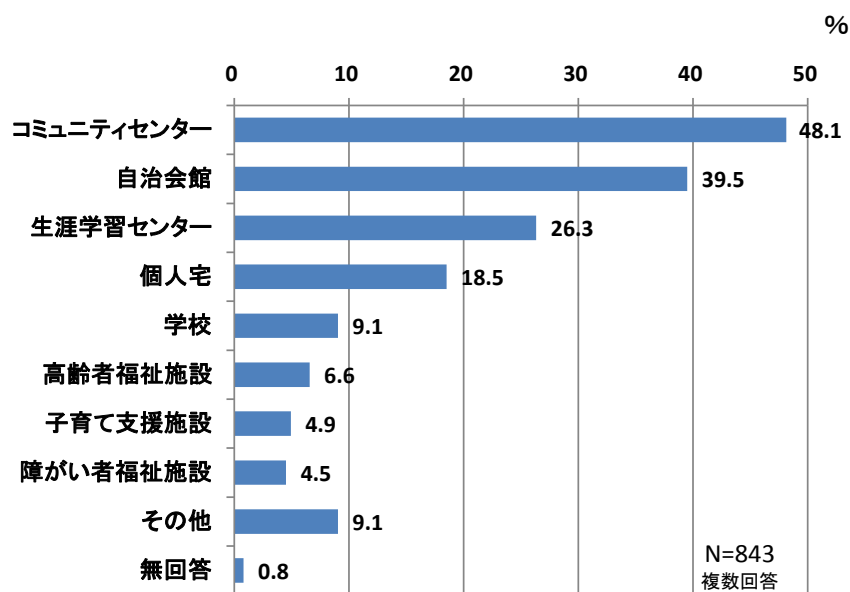
##### ①気軽に立ち寄れる、集える場所の有無

「気軽に立ち寄れる、集える場所」は「ある」とする人が 3 割弱、「ない」とする人が 4 割弱で、「わからない」とする人が 3 割あった。



##### ②気軽に立ち寄れる、集える場所

「気軽に立ち寄れる、集える場所」の具体的な場所の上位 3 項目は、「コミュニティセンター」「自治会館」「生涯学習センター」であり、学校や各種福祉施設は 1 割未満であった。



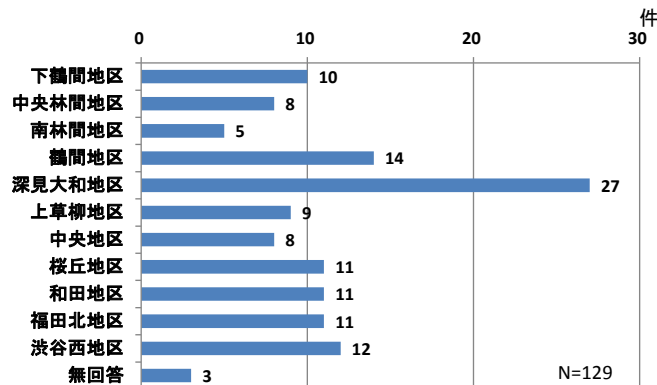
## -- 自治会（長）アンケート --

## 1 調査概要

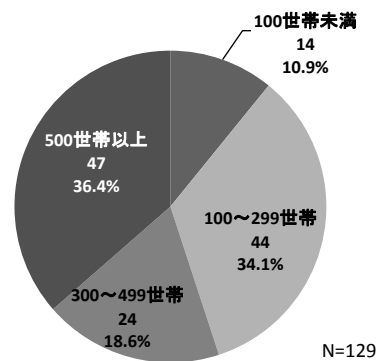
調査方法 郵送で発送、郵送で回収  
 配布総数 152 団体  
 回収総数 129 団体  
 回収率 84.9%  
 実施時期 平成 25 年 6 月～7 月

## 2 回答のあった自治会の概要

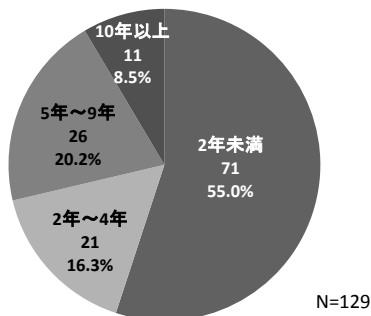
## (1) 地区



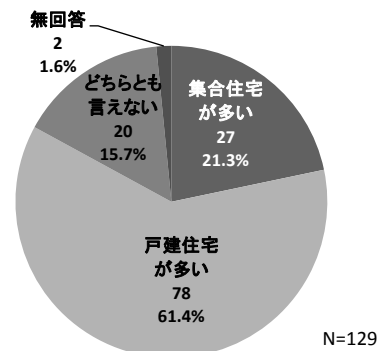
## (2) 規模



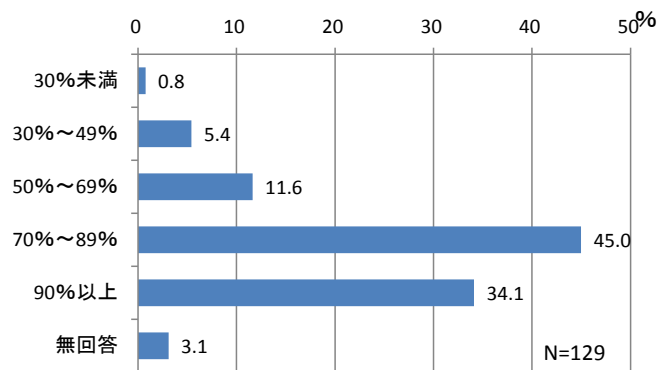
## (3) 現在の自治会長の在任期間



## (4) 住宅地の様子



## (5) 加入率

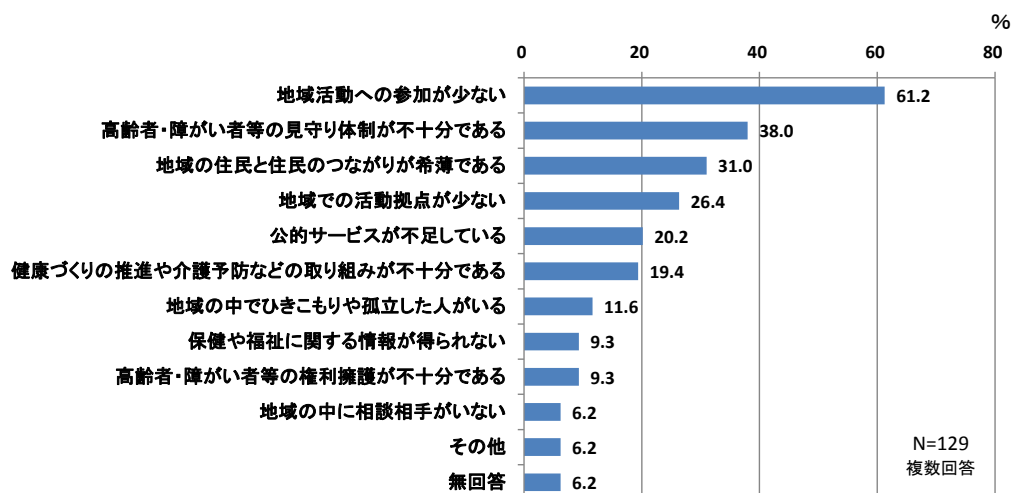


## 3 調査結果

### (1) 地域が抱える課題

地域が抱える課題上位3項目

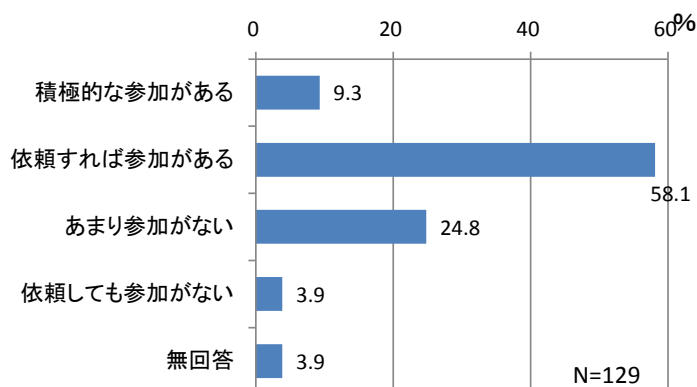
地域活動への参加が少ない、見守り体制が不十分、住民同士のつながりが希薄



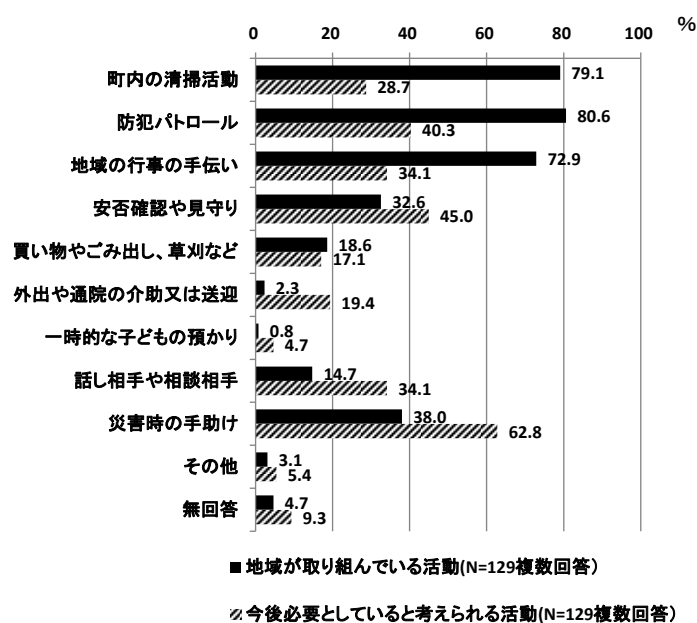
### (2) 地域活動

#### ① 地域活動への住民の参加状況

依頼すれば参加があるが6割を占める。



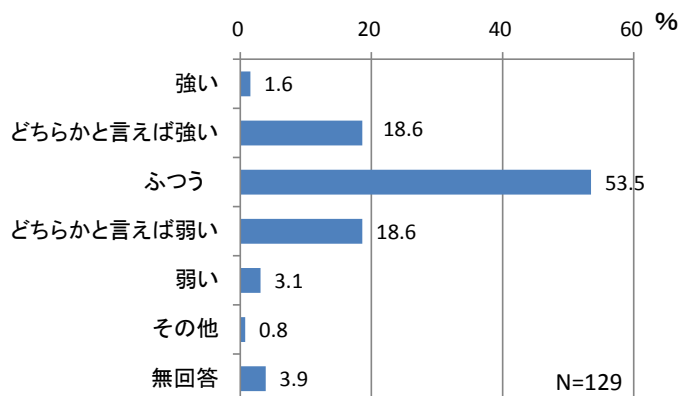
## ②現在の活動と今後必要となる活動(比較)



## (3) 住民と住民のつながり

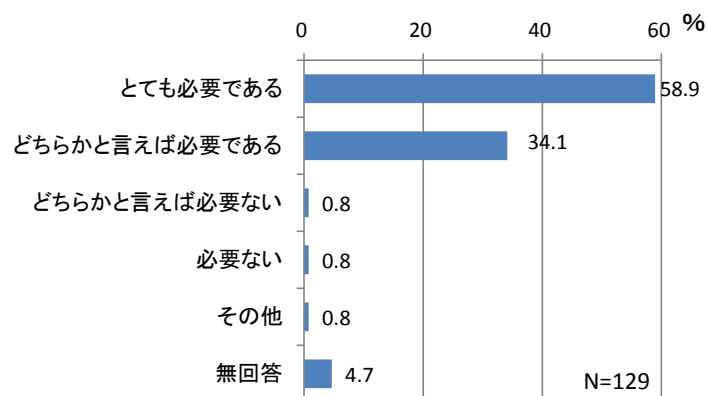
### ①地域内での現在の住民と住民のつながり

住民と住民のつながりが弱いとする自治会は2割弱



### ②地域内での住民と住民のつながりの必要性

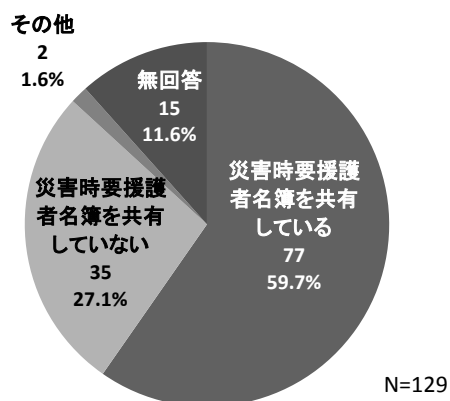
住民と住民のつながりの必要性は、9割を超えている(どちらかと言えば必要を含む)。



#### （４）災害時要援護者について

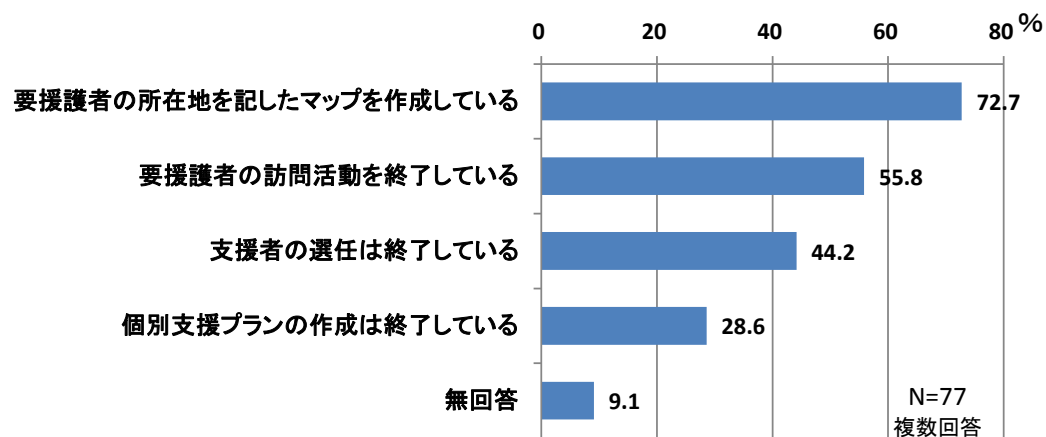
##### ①災害時要援護者名簿の共有

災害時要援護者名簿を共有していない自治会が３割見られる。



##### ②災害時要援護者支援制度の取組（災害時要援護者名簿を共有している自治会）

災害時要援護者名簿を共有している自治会では、マップ作成は７割、訪問活動は６割と比較的多いが、支援者の選出４割、個別支援プラン作成３割と比較的少ない。



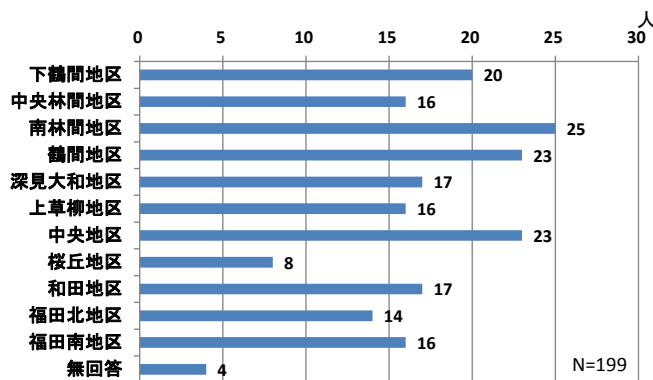
## -- 民生委員児童委員アンケート --

## 1 調査概要

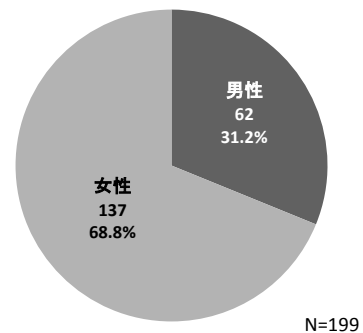
調査方法 郵送で回収  
 配布総数 270 人  
 回収総数 199 人  
 回収率 73.7%  
 実施時期 平成 25 年 7 月～8 月

## 2 回答者(民生委員)の概要

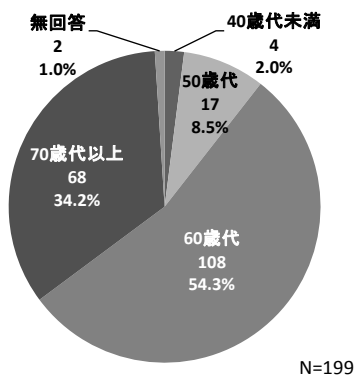
## (1) 地区



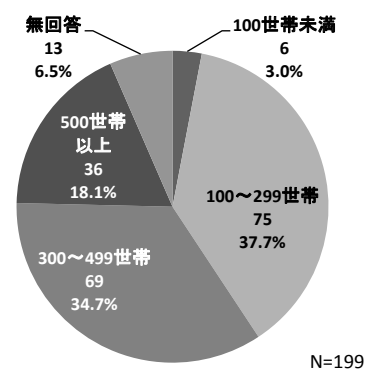
## (2) 性別



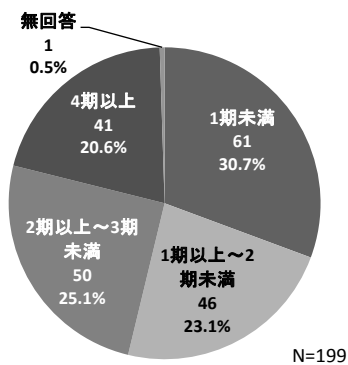
## (3) 年齢



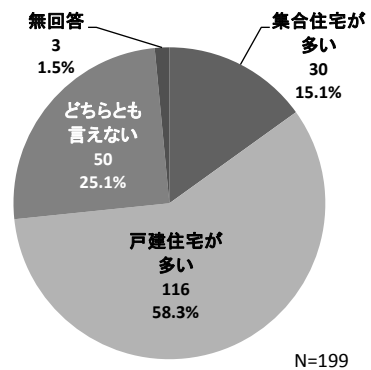
## (4) 受け持つ世帯数



(5) 民生委員としての経験年数



(6) 受け持つ地区の住宅地

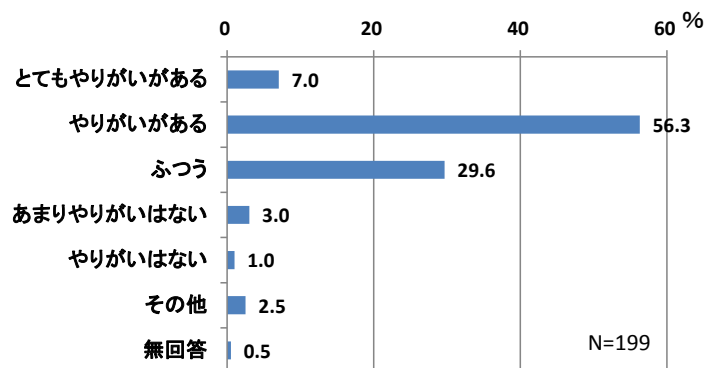


### 3 調査結果

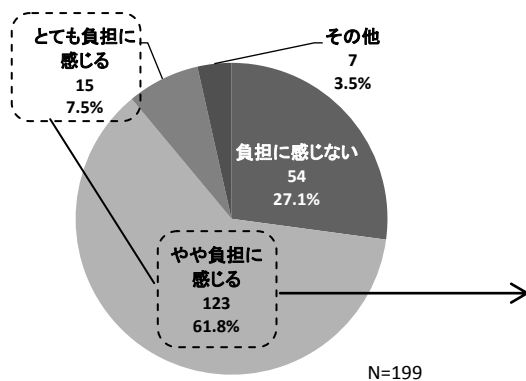
#### (1) 民生委員のやりがいと負担感

民生委員は、負担感を感じつつもやりがいを感じている。

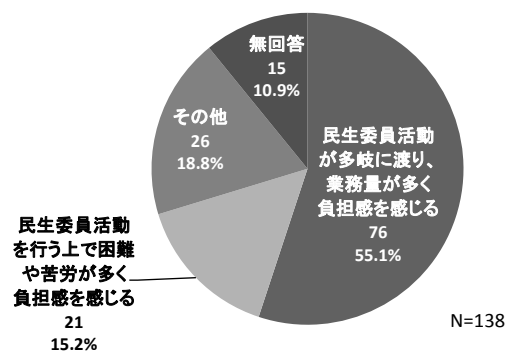
##### ① 民生委員のやりがい



##### ② 民生委員の負担感



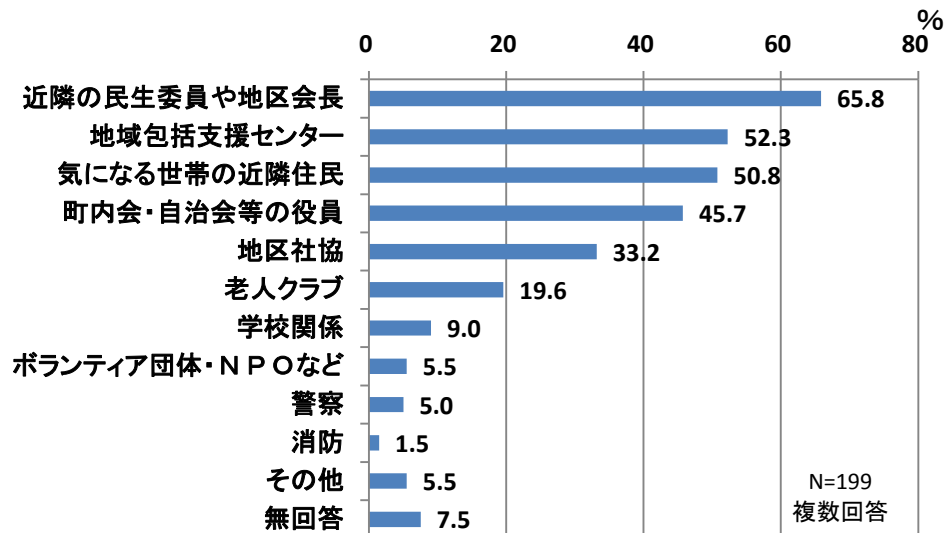
##### ③ 負担に感じること



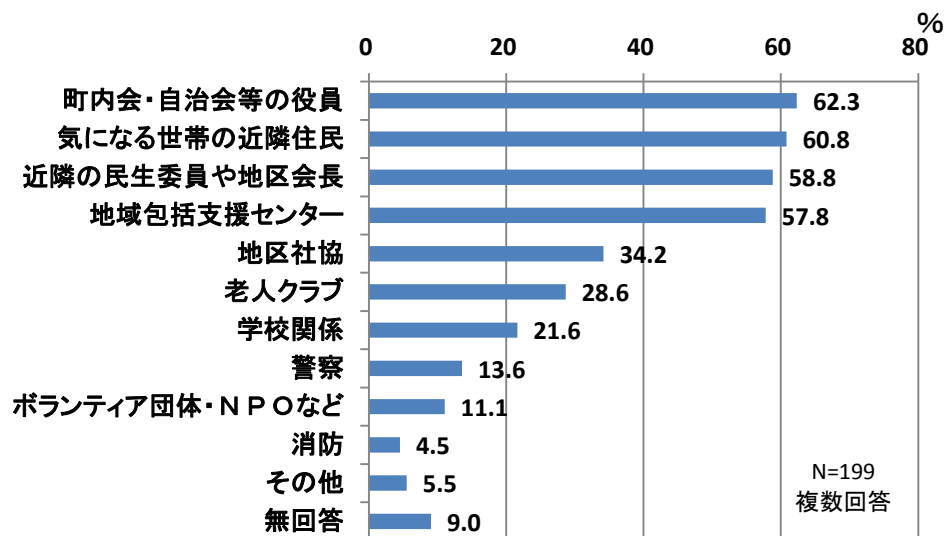
## （２）協力して進める相手先

町内会・自治会等の役員や近隣住民の協力を求めている。

### ①現在協力して進めている相手先

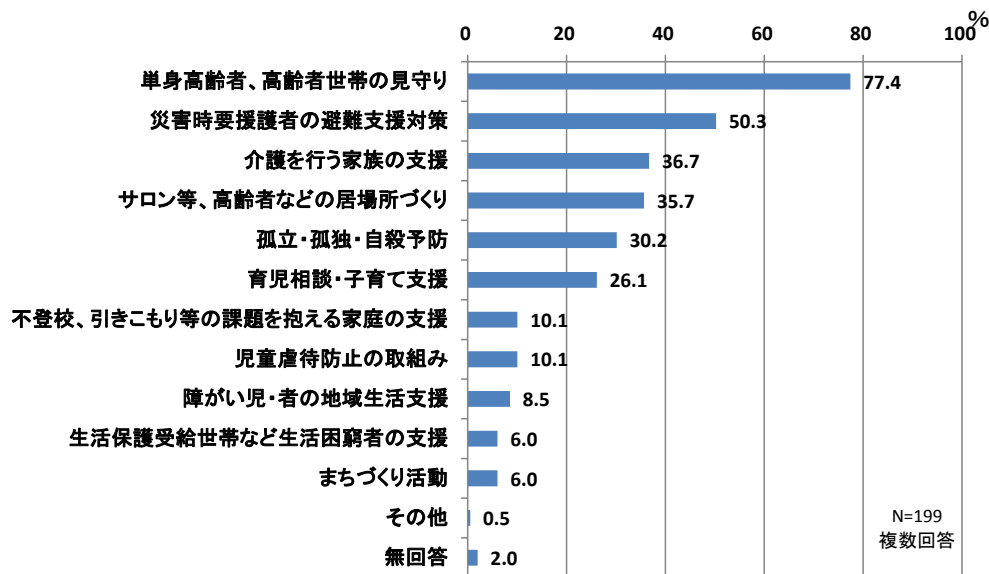


### ②今後協力して進めていきたい相手先



### (3) 今後、民生委員として必要と考える取組

高齢者への支援が必要と考える割合が高い。



### (4) 民生委員の活動支援のための行政に求められる支援

圧倒的に「情報提供」を求める声が多い。次いで「民生委員が動きやすい体制づくり」「庁内窓口の一本化・担当者の引き継ぎ」、「施設の充実」などが求められている。(自由記述)

